

多摩市立図書館本館再構築基本構想 意見交換等／ビジネス支援

日程：平成 28 年 11 月 1 日（火）

出席：宮崎経済観光課長・吉田商工観光担当主査／中島図書館長・笹原

現在の多摩市立図書館の取り組み

- 本館に「資格・スキルアップコーナー」を設置している。職業能力開発に係る種々の資格の参考書や問題集等を置き、貸出・閲覧を行っている。
 - コーナーの棚上に、産業労働局「支援ガイド」や「たま NAVI」等の関連パンフレット・チラシ、求人広告を置いている。
 - 資格の数が多く、最新の資料のニーズ等、どこまで対応できるかの課題
 - 盗難も比較的多い。
 - 市立図書館は、県立に比べると貸出業務が中心で、相談業務の専門性は乏しいのが現状
- (参考) 図書館で契約しているオンラインデータベース

データベース名	内容	閲覧できる図書館
官報情報サービス	独立行政法人国立印刷局 官報(昭和22年5月3日から当日まで)の日付、記事検索	本館
ジャパン・ナレッジLib	ネットアドバンス 小学館「日本大百科全書」、英語辞典類、人名辞典の検索など	全館
開蔵II ビジュアル	朝日新聞社 朝日新聞の記事検索(1879年～)、知恵蔵の検索など	全館
日経アレコン21	日本経済新聞社 日本経済新聞等、日経四紙の記事検索(1975年～)、企業・人物情報など	永山
ヨミダス文書館	読売新聞社 読売新聞(1986年～)、The Japan News(1989年～)の記事検索など	開戸・永山
TKCローライブラリー	ぎょうせい 法令や判例、法律関係の文献検索など	全館

図書館のビジネス支援のニーズ

- 「創業」における、個々の事業を支援するための図書館でのビジネス支援は、は、立ち上げる事業のジャンルが広すぎてなじまないかもしれない。図書館員に支援スキルがあるか、どこまでアドバイスできるかも課題。
- 青色申告等の手続き関係の知識習得に関しては、ニーズがある。申告や登記等を自らする事業主もいるし、税理士等に依頼するとしても予備知識は必要なため。スキルアップとも違う分野。
- オンラインデータベースがあっても、必要な情報をどう探すかのアドバイスをしてくれる人がほしい。
- 特許や意匠登録のニーズもある。
- ビジネス司書の養成が必要。
- 市内企業の社員もビジネス本が充実していれば、駅前の大型書店よりも図書館に立ち寄ることが考えられる。
- ビジネス支援に係る資料・情報は、どこでも手に入るのも便利だが、目的をもって調べものをする際には集約してある方が重要。

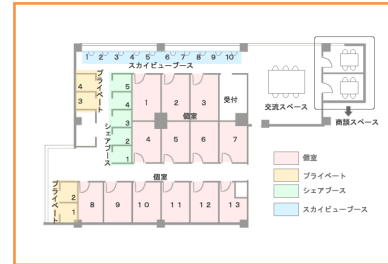
商工会議所

- 青色申告の支援は、役に立っており、ニーズがある。
- 図書館のビジネス支援コーナーからの紹介があれば行きやすいし、役割分担にもなる。

現在の創業支援施設（ビジネススクエア多摩）について

(施設概要等)

- ビジネススクエア多摩（以下、「BS」）は、多摩市が設置し、多摩大学総合研究所が運営主体となり、多摩信用金庫（たましん）を運営パートナーとする創業支援施設。ベルブ永山 4F
- 創業支援施設として、3つのサービスを提供。①オフィス支援、②経営支援、③教育支援



- 家賃は、12,000 円/月～43,000 円/月
- インキュベーションマネージャー（経営相談）は、たましんから派遣されているので、金融的な視点が中心。BIM 認定を持っているインキュベーションマネージャーも嘱託で雇用している。
- 入居者は、IT 系が多い。他にはコンサルティングやカウンセラー、設計士等。出入りが多いわけではない。

(課題等)

- 駅前立地ではあるが、細い廊下の先にあり、奥まっけて開放感がなく、入居者以外利用しづらい雰囲気がある。特色も少なく、施設が新しい、家賃が安いといった他市の創業支援施設に創業希望者が流れていっていることが予想される。
- 創業希望者は、各市で取り合いの状況。
- 現在の BS は、350 m²程度の大きさだが、やや大きすぎ、空きも少なくない。

新本館内の創業支援施設併設の可能性について

- 新本館の中で、創業支援施設が併設できるとよい。図書館のビジネス支援コーナーでビジネス本を借り、資料作成や事業計画作成などができるよう、有償のコワーキングスペースや打ち合わせスペースがあるといい。
- 資料面での図書館機能との連携。
- インキュベーションマネージャーがビジネス司書を兼務し、どこにどんな資料があるか、国勢調査や経済センサス等、オンラインデータベースの使い方の紹介、他の機関の紹介等のコーディネート・ハブ機能を持たせる。
- 図書館の誰でも気軽に出入りできる雰囲気が良い。図書館の一般利用者が相談することができることで、利用者も増える。
- 図書館と併設の創業支援施設は他市に例のない取り組みになる。
- ビジネスマンにとっては、新本館の位置もそれほど遠いとは思わないと考える。
- 創業支援の目的のひとつは、創業後も、市内で事業を継続し、納税してもらうこと。拠点となる施設があれば、市内で事業継続してもらえる。

その他

(就労支援について)

- ベルブ永山にはハローワークもあるが、「面接の受け方」や「履歴書の書き方」など、採用に関するテクニックのセミナーが中心。本を読んで就労に臨むといった人は少なく、永山図書館のニーズは少ないかもしれない。

(多摩市の地場産業について)

- 経済センサスによると、①小売・物販、②サービス、の順だが、それが多摩市の産業というわけではない。

多摩市立図書館本館再構築基本構想 意見交換等

／多摩市議会子ども教育常任委員会委員

日程：平成 28 年 11 月 10 日（木）

出席：【子ども教育常任委員会】藤原マサノリ委員（委員長）・安斉きみ子委員（橋本由美子委員代理）・岩崎みなこ委員・岩永ひさか委員・池田けい子委員・いじま文彦委員／【基本構想策定委員会事務局】福田教育部長・中島図書館長・栗崎サービス係長・笹原・コンサル寺田さん

1 基本構想策定委員会事務局 説明

- ① 基本構想の位置づけ
（基本構想の位置づけ、開館までの全体スケジュール）
- ② 検討状況と今後の予定について
（第 5 回までの進め方・審議内容、委員会での意見のまとめ）
- ③ 基本構想案の骨組みについて
（構想案の構成、本館に必要な基本的な機能、新たに見えてきた機能）
- ④ 運営面などについて
（インプットとアウトプット単純比較、浦安市との比較、分野別貸出冊数、蔵書の分散状況、本館と分館の比率）

2 子ども教育常任委員会委員 ご意見・ご質問

- ・ 本館に必要な機能として新たに見えてきた機能の紹介は、新しく整備された現在の図書館には、あたりまえのようにある機能。
- ・ 立地上、アクセスをしっかりと考える必要がある。ミニバスを通すことも必要、京王バスと交渉をすべき。

- ・ 中央図書館をつくる会の市民連続講座に参加した。講師の森下芳則氏（元愛知県田原市図書館長）から、多摩市と浦安市、調布市の比較があった。多摩市は資料費と人件費の再編の検討が必要と考える。

- ・ 何のために中央図書館をつくるのか、たまたま敷地の手当てがついたからか、根本的な議論が浅い感じがする。
- ・ 多摩センターにつくる意味、多摩市の将来にどうつながるかを議論しているか。
- ・ 地域館が問題になり、その方向性がないままに、中央館の構想でいいのか。
- ・ まちに広場ならわかるが、図書館になぜ、広場が求められるのか？
- ・ 事務局説明を聞いて、多摩市という言葉を除けば、どこにでも当てはまる、変わり映えがしない。大和市のシリウスの子ども図書館は、周辺他市より広いスペースを確保しているという市長の話があった。多摩市の特色が必要。
- ・ 周辺他市や先進市は、図書館を単体で建てていない。
- ・ この図書館で何を実現したいのか、多摩市の中でどんな位置づけになるのか。
- ・ 大人の意見ばかりを聞いている。大学生以下の中学生等を議論に参加させるべきではないか？

- ・ 中央図書館を使う人は、どんな人を想定しているのか。
- ・ 暫定活用 10 年だからしょうがない、鶴牧倉庫跡地も難しい、桜美林から良い条件がある、だから新本館を建てるでは空しい、どういうコンセプトなのか。

- ・ 中央図書館的な機能を持った本館ということを理解している。

- ・ 市民意見の反映に努めること。
- ・ 桜美林からの話は、良い機会だと考える。

- ・ 地域館と本館の役割分担が必要。地域館と本館で蔵書構成をどう変えるのかを示してほしい。
- ・ 構想を実現するには、すばらしい司書が必要。学校司書は、人によってかなり格差がある。公共図書館も同様。専門的で優秀な司書が不可欠。

- ・ どのくらいの規模の図書館を、どれくらいの人で運営していこうと思っているのか、セットで考えることが必要。
- ・ 行動プログラムの更新案で、地域館についても現状で運営ということになり、前提条件は変わってきた。地域館は、一旦立ち止まるのに、新本館だけ前のめりで走り出している。整合性が必要。
- ・ 委託導入の経緯から言っても、このまま職員が育たないで、新本館ができることは、オーバースペック。

3 基本構想策定委員会事務局 説明・回答

- ・ 中学生の意見は聞いていないが、学校図書館司書、文庫連で活動している市民とのヒアリングを実施した。
- ・ 図書館はサービスをする仕組みであり、多摩市はその仕組みづくりについては先進的な取り組みをしてきた。しかし、今の多摩市の図書館は、「発育不全」といえる。多摩市は、地域館から整備していった、地域の人々が満足するシステム。中央図書館を知らないから、豊かな資料世界を経験していないし、貸出を中心に発展してきた当初の枠組みから進化していない。
- ・ 中央図書館の場所について。条件としては、①シンボリックであること、②駐車場があること。南相馬市でも 100 台、それでも足りない。既に、駅前に拠点館 2 館が整備されていることから、中央館は十分な駐車場がとれる敷地がふさわしい。整備予定地では、駐車場の用地が確保できそうだ。
- ・ アクセスについても、多摩センター方面、中央公園から来るのがメインと思込まれているが、新本館の南側の住宅地から来る人がたくさんいる。予定地は歩行者専用道路の辻広場のそば、そこから四方に歩行者専用道路が伸びている。歩行者専用道路がメイン通り。自転車アクセスする方への対応も必要。
- ・ 図書館の広場機能について。図書館では目的につくられてきた。図書館で本を借りなくても、人、展示、モノ等との出会いがある。用がなくても行ってみたいと思わせるのが最近の図書館のテーマ。片山元総務大臣の言う「知の地域づくり」に通じる。
- ・ 中央図書館をつくらないと、多摩市はもっとヘタってくる。今と同じお金を使い方の再編で利用者が喜ぶイノベーションが必要。
- ・ 浦安の中央図書館を是非、視察してほしい。開架は永山図書館の 4 倍ある。魅力が 4 倍になるというのではなく、図書館の使い方が変わってくる。図書館の建築ではなく、資料世界を見てほしい。
- ・ お金・人のマネジメントが重要。人件費を下げ、資料費を上げる。分館で何をそろえ、市民はどう使い分けるのか。全体人数が決まっているなら、それで成立する本館・分館のマネジメントが必要

- ・ 中央図書館は多摩市の図書館ネットワークを完結するまとめとして構想されてきたが、第四次総合計画から棚上げされ、現本館も 10 年を前提として最低限の改修をしてきた。今後の多摩市の図書館サービスを持続し、向上させていくためには、機会を捉えて本館を本格的に整備する必要があるという認識で整備する考えである。
- ・ 本館と中央館の違いについては、これまでも議会答弁で答えているところだが、多摩市の経緯を踏まえた言葉遣いを含めて、そのことを明確化しておくべきだと考えている。